

事業概要

| | | | |
|------------------|---|----------------------|--------|
| 応募No. | 9 | | |
| 事業主体 | 新潟県 | 実施都市名 | 新潟県長岡市 |
| 応募者名 | 新潟県土木部都市局都市整備課 | | |
| ふりがな 事業名称 | ながおかとしけいかくどうろ まきやままちかめがいせんせいびじぎょう 長岡都市計画道路 横山町亀貝線整備事業 | | |
| 事業概要 (400字以内) | <p>本路線は、長岡市北部地域における信濃川で分断された市街地の東西を結ぶ幹線道路であり、国道8号長岡東バイパスと長岡市三島地区(旧三島町)または日本海を最短距離で結ぶ広域幹線道路としての機能を持ち、長岡市における『ラダー(梯子)型広域幹線道路網』の基軸を成している。</p> <p>しかし、JR信越本線が市街地の中心を南北に縦断しているため、市内の発生交通を分散させることができず、旧国道8号及び鉄道を横断する道路で交通渋滞を引き起こしている。</p> <p>このため、鉄道と立体交差する本路線の整備により、交通渋滞の解消と東西市街地の一体的な発展を図り、併せて北陸自動車道長岡北スマートICと同時開通することにより、北部地域におけるストック効果の最大化を図るものである。</p> | | |
| 事業規模 | 事業延長 | 930m | |
| | 幅員 | 16.0～50.0m(一般部16.0m) | |
| | 事業期間 | 平成18年度～平成30年度 | |
| | 事業費 | 約68億円 | |

事業位置図



都市計画図(用途地域図)

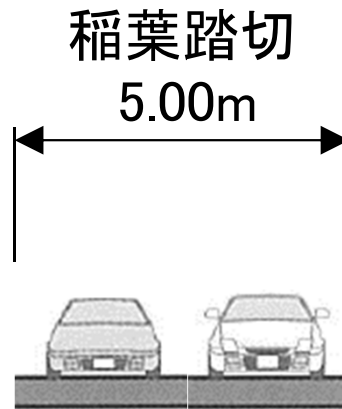


平面図



横断図

整備前



整備後



路線全体の進捗状況

都市計画道路 3・4・43号 横山町亀貝線 L=4,990m W=16~50m

整備済区間 L=2,910m
(平成6年供用)

今回応募区間 L=930m
平成29年3月25日供用開始

整備済区間 L=1,150m
(平成14年供用)



事業前写真



改修橋付近渋滞状況 平成18年撮影



稲葉踏切付近渋滞状況 平成19年11月撮影

事業後写真

(横山町亀貝線整備事業)



西側から東側を望む 令和元年5月撮影



東側から西側を望む 平成28年12月撮影

事業前写真



稲葉踏切付近通行状況 平成18年撮影



稲葉踏切付近通行状況 平成19年11月撮影

事業後写真

(横山町亀貝線整備事業)



平成29年3月撮影



平成29年3月撮影

交通量の変化(平日・12時間)

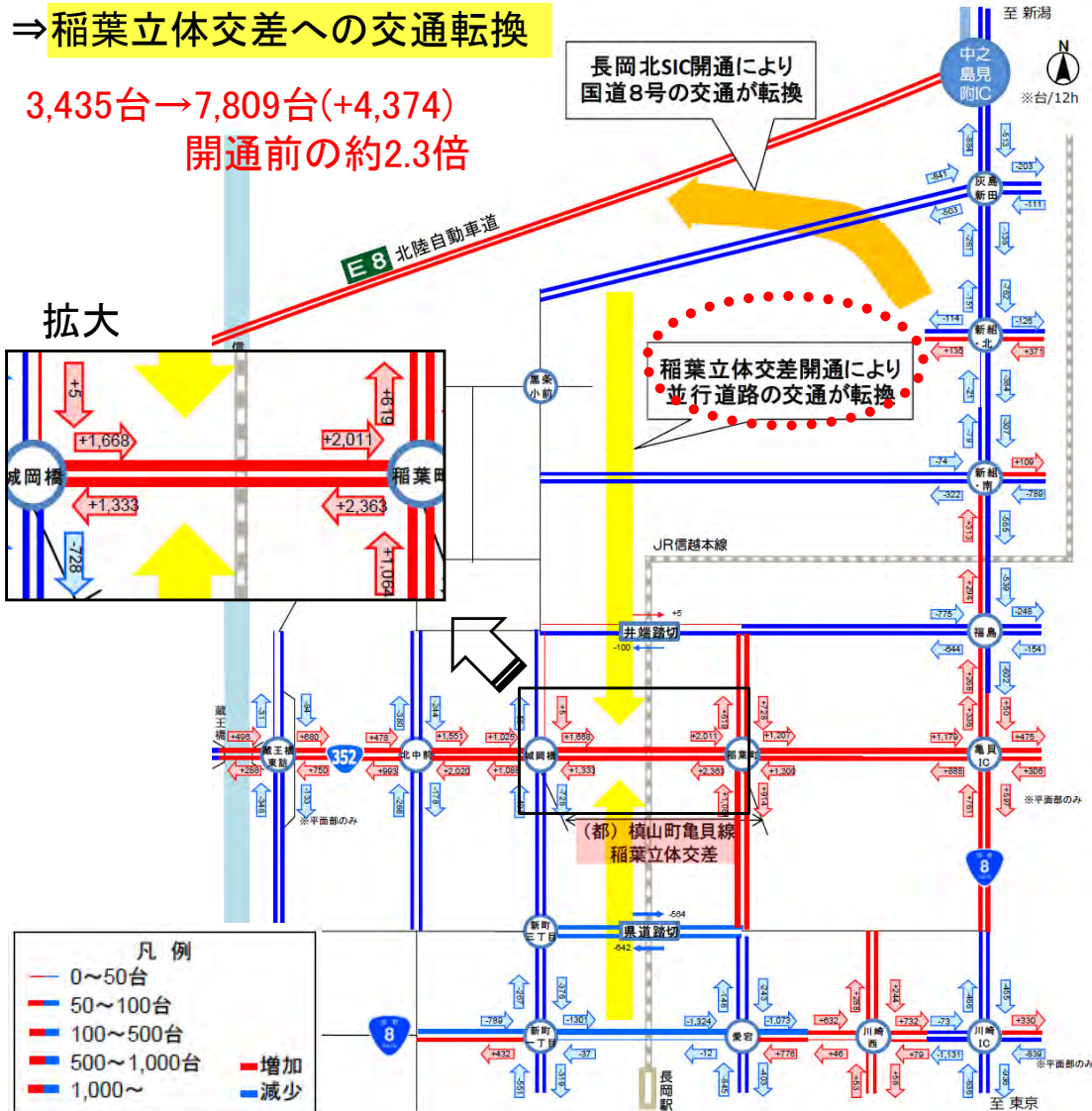
稲葉立体交差に並行する道路の交通量が減少し、立体交差区間の交通量が増加した。

⇒稲葉立体交差への交通転換

3,435台→7,809台(+4,374)
 開通前の約2.3倍

長岡北SIC開通により
 国道8号の交通が転換

稲葉立体交差開通により
 並行道路の交通が転換



調査日: 開通前H28年11月30日(水)
 開通後H29年10月17日(火)
 調査時間: 7:00~19:00

渋滞長の変化(平日・朝ピーク)

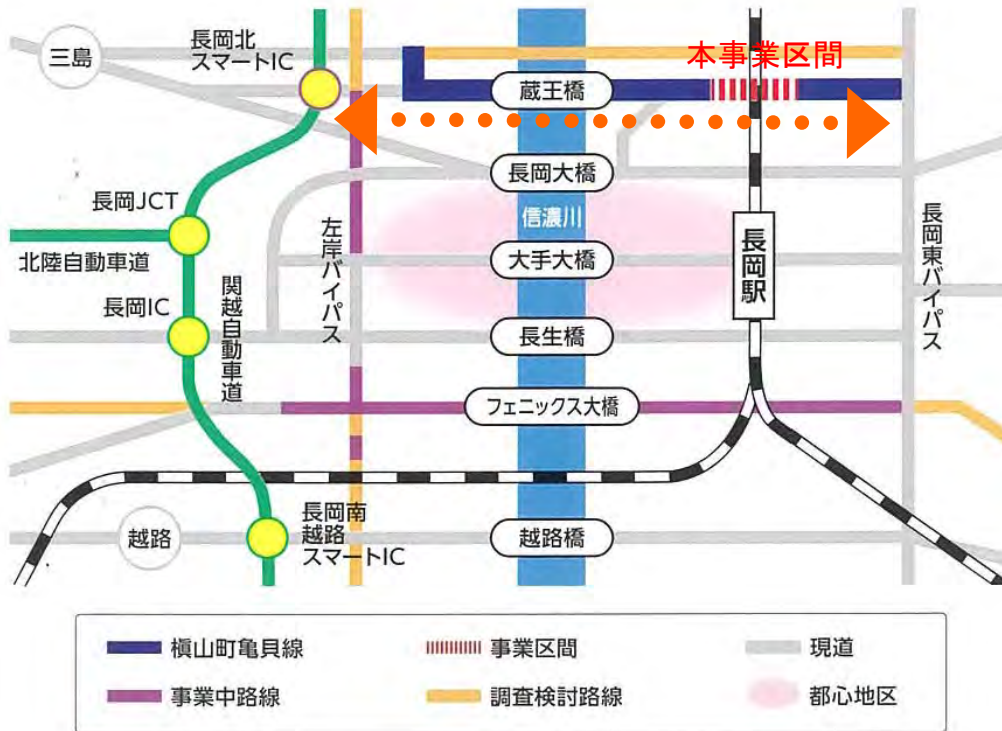
国道8号等の主要交差点で渋滞長が減少した。

⇒稲葉立体交差への交通転換



都市の骨格の形成

- ◆長岡市における『ラダー(梯子)型広域幹線道路網』の一翼を担う本路線の整備により、広域的な都市間の交流・連携が拡大



国道8号長岡東バイパスと北陸自動車道長岡北スマートICを結ぶ**東西の基幹軸が完成!**

生活利便性の向上

- ◆平成29年3月に本事業区間と同時開通した北陸自動車道長岡北スマートICと市街地のアクセスを確保

県内最速! 利用好調!



令和元年10月1日に長岡北スマートIC利用台数が300万台到達!
開通から約2年6か月での到達は、**県内10箇所あるスマートICのうち、最速の到達!**

生産性の向上

- ◆新たな産業団地の整備が進む！
更なる産業振興、雇用創出を図るため「長岡北スマート流通産業団地」を整備中



平成30年度：造成工事着手
予約分譲開始
⇒第一エリアで予約分譲の7社決定！
令和2年度～：順次分譲開始

分譲好調！

製造業や流通業などを誘致し、
地域経済の活性化や定住人口の増加へ

交通の安全の確保

- 整備前の現道は、踏切部を含めて歩道が未整備で、自動車と歩行者・自転車が交錯し、危険な状態
- 冬期においては、堆雪により道路幅員が狭くなり危険性が高まる



◀ 整備前の
稲葉踏切の
通行状況

- ◆両側歩道整備により歩行者・自転車の安全性確保
- ◆歩道の消雪パイプ整備により冬期も安心して通行



苦勞や工夫等アピール資料(1)

複数工事の段階的施工

事業区間 L=0.9km



平成28年6月撮影



城岡大橋



稲葉跨線橋

本事業は、稲葉跨線橋(JR信越本線)、城岡大橋(一級河川栖吉川)、福島江横断函渠(福島江用水路)の重要構造物工事があり、本線改良工事では、補強土壁工法を採用した高盛土区間や、現道交通を確保しながらの3箇所の交差点区間があるなど、複数工事の段階的な施工を余儀なくされた。

また、平成29年3月に長岡北スマートICと同時供用するため、平成28年度に工事が集中し、城岡大橋の上部工製作・架設・床版工事、本線改良・舗装工事、市道改良・舗装工事、消雪パイプ工事及び占用物件工事(電力・通信・ガス・水道)を効率的に施工した。

苦労や工夫等アピール資料(2)

建設業への理解促進

地域資産への愛着醸成

沿線にある「いなばこども園」の子どもたちに現場を解放し、舗装前の橋梁上部工でお絵かきをしたり、作業用重機の乗車を体験。

長岡地域振興局が実施した「子ども参観日」では、職員の子どもたちが現場を訪問。現場で測量体験として、レベルによる高さの確認を実施。



舗装前の上部工にお絵かき

平成28年10月撮影



レベルで高さを確認する子どもたち

平成28年8月撮影

受賞歴・報道資料

新潟)北陸道長岡北スマートICが開通 平成29年3月26日 朝日新聞デジタル

伊丹和弘 2017年3月26日 03時00分

シェア ツイート ブックマーク メール 印刷



北陸道長岡北スマートインターチェンジを走り初める関係者が乗ったバス=25日



北陸道長岡北スマートインターチェンジ(IC)が25日開通した。長岡ジャンクションと中之島見附ICの間にあり、東京方面から「魚のアメ横」がある長岡市 寺泊地域へ行く場合、中之島見附ICを使うより約9分の短縮になるという。

長岡北スマートICはETC専用。車長制限はなく、北陸道上下線に乗り降りできる。総工費は約37億円で長岡市が約12億円、NEXCO東日本が約25億円負担した。市は同ICのすぐ南に長岡北スマート流通産業団地(総面積38ヘクタール、2020年度分譲予定)を計画。磯田達伸市長は「長岡北インターができたことで、県の真ん中にある優位性を発揮できる産業団地になる。寺泊など市北部、出雲崎町へのアクセスがよくなるので、観光面でも期待している」と話した。

また同日、JR 信越線をまたぎ、上越新幹線の高架線の下を通る跨線橋(こせんきょう)を含む都市計画道路横山町亀貝線(事業区間930メートル)も開通(総工費68億円)。同ICと長岡東バイパス(国道8号)亀貝インターが直結した。同線は今後、県道長岡見附三条線の一部として管理される。(伊丹和弘)

平成29年3月27日 FMながおか日記

2017.3.27 カテゴリー: FMながおか日記

長岡北スマートIC・横山町亀貝線 開通！！

2017年3月25日(土) 長岡の交通に新時代！

長岡北スマートインターチェンジと都市計画道路「横山町亀貝線」が、午後2時開通しました！

この日の様子を写真で振り返ります！

(中略)

続いて、午前11時30分。横山町亀貝線へ



横山町亀貝線は、建ち上げれタウンクリーエーター「まちクリ」でもたくさん取材させていただきました。

この現場には、過去5回取材させていただいております。若いカ「ヤングタウン・クリーエーター」も工事に関わっています。